



楽寿園入口



園内案内図

三島市立公園「楽寿園」において、第68回菊まつりが令和2年10月30日(金)～11月30日(月)までの期間、開催されます。開催初日の今日、観賞と取材に行ってきました。

三島市立公園楽寿園は、三島駅のすぐ南に位置した広さ約7万5千㎡の自然豊かな公園です。明治維新で活躍された小松宮彰仁親王の別邸として造営されたもので、現在では国の天然記念物及び名勝に指定されており、多くの観光客が訪れます。

今年の菊まつりを彩る大型盆景は、1年前の焼失から再現と復興を願い沖縄の「首里城」をテーマに8,000鉢を超える菊で園内を彩っています。



守礼門 盆景1



守礼門 盆景2

最初に現れたのは「守礼門」です(写真上左右)。

「守礼」とは「礼節を守る」という意味で、門に掲げられている額には「守礼之邦」(しゅれいのくに)と書かれています。「琉球は礼節を重んずる国である」という意味です。首里城の多数の城門や建築物には公式な名称の他に別名がつけられており、守礼門は古くは「首里門」と呼ばれ、庶民は愛称として「上の方にある美しい門」という意味の「上の綾門(いいのあやじょう)」と呼んでいました。



メイン道路



園比屋武御嶽石門 盆景

メイン道路を進むと世界遺産の「園比屋武御嶽石門」(そのひゃんうたきいしもん)です(写真上右)。

琉球石灰岩でできた門で、国王が外出するときに安全祈願した礼拝所です。形は門になっていますが人が通る門ではなく、いわば神への「礼拝の門」です。



[首里城正殿 盆景1](#)



[首里城正殿 盆景2](#)

実物比1/4の大きさの首里城正殿が色とりどりの菊で再現されています(写真上左右)。

首里城正殿は琉球王国最大の木造建築物で国殿または百浦添御殿(ももうらそえうどうん)と呼ばれ、文字通り全国百の浦々を支配する最も重要な建物でした。正殿を二層三階建てとする事や装飾された龍柱は他に例がなく、琉球独自の形式です。一階は「下庫理」(しちやくい)と呼ばれ、主に国王自ら政治や儀式を執り行う場、二階は「大庫理」(うふぐい)と呼ばれ、国王と親族・女官らが儀式を行う場であり、三階は通気を目的とした屋根裏部屋です。



[出展作品1](#)



[出展作品2](#)

関連イベントとして、第68回東海菊花大会も10月30日(金)～11月15日(日)の間、大菊・懸崖菊・福助造り・切り花などの競技会が開催され、菊の愛好家による丹精込めた菊がご覧頂けます。(審査会は11月5日(木)実施です)

大菊5本鉢と7本仕立ての単鉢です(写真上左右)。



[出展作品3](#)



[出展作品4](#)

花卉のアップです(写真上左右)。写真をクリックし拡大してご覧ください。

菊の花弁数は？…「菊の花の花弁数は5枚」と言ったら意外に思うでしょうか？キク科植物において「ひとつの花のように見える部分」は、実はたくさんの花の集合体。それぞれの花は基本的には筒状で、5

枚に分かれた花卉を持っています。

身近なキク科植物の花をルーペで観察すると、「だまし絵」の中に隠されたような「本当の花の姿」を見ることができます。



[出展作品5](#)

菊花壇(写真上左)と大菊5本鉢(写真上右)です。



[出展作品6](#)

どの鉢の菊も11月5日(木)の審査会を控え、ほぼ満開状態です。ほのかに淡い菊の香りと共に楽しめます。



[出展作品7](#)

盆栽菊(写真上左)と懸崖菊(写真上右)です。



[出展作品8](#)

制作者の年月をかけて菊を育てた作品に…元気を頂きました。



[小浜池](#)



[三島溶岩](#)

菊まつり会場の楽寿園には、富士火山より約1万年前に流動性に富む溶岩が大量に流出しました。黄瀬川沿いに流下したものを「三島溶岩流」といい、楽寿園はその溶岩の上に立地しています(写真上右)。

富士山の東斜面に降った膨大な量の雪や雨は、約10年かけて小浜池に湧き出します(写真上左)。



溶岩小洞穴



常盤の森

楽寿園内の「いこいの松エリア」には溶岩小洞穴(写真上左)が見られます。その他、常盤の森(写真上右)では、縄状溶岩を見ることもでき、菊まつりと共に園内の散策も楽しめます。

-楽寿園 第68回 菊まつりのご案内-

・実施期間: 令和2年10月30日(金)～11月30日(月)

インフォメーション

・場所: 三島市立公園楽寿園(三島駅南口 徒歩5分)

・開園時間: 10月 午前9時～午後5時  
11月 午前9時～午後4時30分

・入場料: 15歳以上 300円

・駐車場: 有り

・お問合せ: 055-975-2570

取材: 中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章